

---

任意団体 ソレステレージャ奈良2002  
クラブ設立趣意書

---

わが国の青少年のスポーツ環境は、主に学校体育主導型で発展してきた。学校の施設を利用しての主体的、献身的な「教員」という学校人材の活動があつてこそ、現在、わが国の青少年スポーツの基盤拡充がなされた。加えて、「地域の大人たち」も各々の領域での熱情的な活動に従事し、地域の青少年スポーツを支えてきた。「教員」「地域の大人たち」が両輪となり、スポーツを通じて多くの青少年の「生きる力」を育んできたことはまぎれもない事実である。

しかしながら、現況の青少年スポーツ環境は危機に瀕している。中学年代においては、少子化による生徒数の減少、生徒・保護者の受験偏重主義による部員数減少、採用教員の削減、教員の高齢化・多忙化、仕事量の増加、部活動顧問教員の不足。等の状況の中で、団体競技が成り立たない運動部が出現。複数校による合同部活動、休部・廃部という危機的な現象となっている現実がある。もはや、単一中学校のみでスポーツ部活動を維持していくことが困難な状況となっている。

小学年代においても、同様に少子化による児童数減少、塾通いの増加、受験期の低年齢化に加えて「世話をすることが大変である」という保護者自身の意識が子どものスポーツ離れに拍車をかけ、また、地域のスポーツ少年団活動の運営にも支障をきたしているのが現状である。昨今の社会的な認識の中で、地域へのボランティア活動の重要性が叫ばれてはいるが、反面、子どもたちのスポーツ活動においては、継続的に従事できる地域のボランティアスポーツ指導者は減少している。現在、奈良市においても、児童の地域スポーツ活動の受け皿として機能しているスポーツ任意団体も小学校単位では運営ができず、地域を越えて連合・合併をするところが増加している。

文部科学省における教育改革の方向性、潮流の中で、地域教育、地域スポーツに関しても各種見解、提案がなされている現実がある。中央教育審議会第1次答申（平成8年7月19日）において、これからの地域社会における教育の在り方の中で、学校施設の活用、社会教育・文化施設の整備充実と新たな事業展開、新たなスポーツ環境の創造、青少年団体等の活動の振興、地縁的な結びつきによるものだけではない、同じ目的や興味・関心に応じて結びつき、子供たちを育てる教育の場である「第4の領域」の積極的な育成等のさまざまな角度からの提案がなされている。

平成14年度（2002年）より、学校週五日制の実施に伴い、学校のスリム化が促進され、部活動については「教育活動の一環としての意義を持つことは評価しつつ、学校や地域の実態を踏まえて、地域社会にゆだねることが適切、かつ可能なものはゆだねていくことが必要である。」という見解が提示されている。さらに、教育課程審議会中間まとめ（平成9年11月17日）の中で、教育課程の見直しがなされ、「クラブ活動については、小学校においては、学校において適切な授業時数を配当できるようにし、また、中学校および高等学校においては、廃止する方向で検討する。」という見解が提示された。「部活動」が「必修クラブ活動」を補完していた現実があつたが、教育課程改訂にともなう「必修クラブ活動」が廃止になったことにより「部活動」の活動形態にも変化が生じようとしている。今後は休日における部活動の制限も予想される。

子どもたちのスポーツが学校内のみで行われるのではなく、学校と地域社会・地域スポーツクラブが一層連携して、子どもたちに学校外でのスポーツ活動の機会を提供し、子どもたちのスポーツ活動を充実していくことが必要となってきた。「スポーツ振興基本計画」（文部大臣告示 平成12年9月13日）の中で、地域のスポーツ振興施策の展開方策として、一貫指導システムの構築、指導者の養成・確保、子どもたちの豊かなスポーツライフの実現に向けた学校と地域の連携の推進等が提案されている。今、まさに地域青少年スポーツの転換点であることは、紛れもない周知の事実である。

学校及び地域社会双方の人材が連携して地域のスポーツ環境づくりを促進することは、地域の青少年たちのスポーツ活動を充実させるとともに、地域スポーツ文化の発展と地域コミュニティの活性化に寄与できるものである。スポーツは青少年の心身の健全な発達を促すものである。自

己責任、克己心、フェアプレー精神、仲間や指導者、サポートしてくれる地域の大人たちとの交流を通じて社会性を育み、青少年の様々なストレスの昇華、多様な価値観を認め合う機会を与えるなど青少年の健全育成に寄与するものである。また、スポーツを通じて地域の人々が交流を深めていくことは、新たなネットワークを創出するとともに、一体感や活力を生み出し、自分自身を生み、育ててくれた「うぶすな（産土）」「ふるさと」として地域に誇りと愛着を感じることもなろう。

このようなわが国のスポーツ環境の現状を認識し、教育改革及び地域スポーツの未来像等の方向性、潮流をも勘案した上で、スポーツという世界共通の文化に対する意義と価値を地域社会の中でも再認識し、新たなスポーツ環境を構築する必要がある。以上のような趣意に基づき、地域の中で[サッカー]というスポーツを通じて、青少年の健全育成に永年に亘り従事してきた「学校教員」と「地域の大人」が連携、発起し、奈良県下で初めての「学校」「地域」融合による新たな地域スポーツ形態として、[サッカー]を主体とした非営利・地域スポーツクラブ【SOLESTRELLA NARA 2002 (ソレストレージャ奈良)】を設立する決意にいたった次第である。

平成13年6月30日

発起人代表 塚本 茂